

第 42 回 定例基礎棟セミナーのご案内

日時：2015 年 5 月 19 日（火）18：00～19：00

場所：医学部基礎棟 3 階 325 会議室（西エレベーター前）

獨協医科大学・公衆衛生学講座教授 小橋 元 先生 「橋渡しと連携のための疫学」

小橋元先生は、北海道大学医学部をご卒業後、北大産婦人科に入局し臨床研修の後、北大公衆衛生学講座助手、大学院予防医学講座講師を経て、放射医学総合研究所に移り、ゲノム診断研究グループチームリーダー、医療情報室主任研究員、研究倫理企画支援室長などを歴任し、分子疫学、臨床疫学、社会医学の分野で研究業績を上げられ、2015年4月より獨協医科大学の公衆衛生学講座主任教授に就任されました。この度は、予防医学、人を対象とするさまざまな研究の成果と今後の展開についてご講演いただくことになりました。

講演要旨

疾病予防・健康増進のためには、基礎医学、臨床医学を含むさまざまな公衆衛生の枠組みの中で、必要にして適切な対策を展開する必要がある。疫学はそのための基礎となる方法論であり、疫学研究の積み重ねにより社会に役立つ根拠（エビデンス）が示される。近年は、疫学研究で取り扱う指標も、従来の調査票、臨床検査データからヒトゲノム・遺伝子解析データまで多岐にわたり、研究・解析の手法も大きく発展している。また、基礎研究で得られた知見を発展させて臨床試験・介入疫学研究につなげ、さらにはその結果を日常診療・治療、健康政策決定等につなげる「橋渡し研究」や、研究参加者へ診療情報、研究用採血から遺伝子解析を行い、現時点での研究内容は特定せずに将来の研究利用のために保存する「バイオバンク」などが注目されている。

今回は、今までに私達が行ってきた疫学研究の一端を紹介しながら、疫学・予防医学研究の有用性と魅力を伝えるとともに、基礎、臨床を含む新しい疫学研究、共同研究、橋渡し研究の可能性を展望する。今後の学内共同研究、連携の促進の一助となれば大きな喜びである。